12月定例会の概要

会期　12月1日～12月19日の19日間

【一般質問議員 16人】

12月8日(金)			
秋月	史成	岩井	弘次
玄素	彰人	新島	雄

12月11日(月)			
片桐	章浩	中村	裕一
浦平	美博	林	隆一

12月12日(火)			
藤山	将材	北山	慎一
長坂	隆司	高田	英亮

12月13日(水)			
玉木	久登	谷口	和樹
三栖	拓也	山下	直也

主な質問とこれに対する知事や関係当局の答弁は、次のとおりです。（要約）

農業振興の取組

問 農業振興のため、具体的にどのような政策を実施するのか、知事に伺う。

リモコン式草刈機

答 農業の振興には、担い手の確保や生産力の強化、販路の拡大などが重要です。令和6年度は、親元就農者への支援や農業法人の育成、スマート機器の導入促進、大阪・関西万博を契機とした販路拡大などに取り組みます。

今後とも、県民からの意見を聴きながら、現場の状況を確認し、本県農業の活性化に向けた新たな施策を展開したいと考えています。

重点施策と予算編成の方針

問 未来につながる重点施策のうち公約に関する取組について知事に伺う。

答 財政健全化の取組を行いながら、県民すべてが希望を持って生き生きと暮らせるウェルビーイングな和歌山を実現するため、公約である子育て環境の整備や農林水産業の活性化、脱炭素先進県に向けた取組など、新たな課題にも的確に対応する予算案について、広く県民の皆様の意見も聴きながら取りまとめて、2月議会に提案します。

ウェルビーイング…個人の権利や自己実現が保障され、身体的、精神的、社会的に良好な状態にあることを意味する概念

民間小型ロケットの打ち上げ

問 「カイロス」打ち上げ延期の理由と今後の予定について伺う。

スペースポート紀伊イメージ図（スペースワン株式会社提供）

答 打ち上げ延期の理由は、想定していた時期に部品が入手できなかったことによる全系統かみ合わせ試験などの遅れ、また、昨今の国内外のロケットの打ち上げ失敗を教訓とした、追加的な検証・改善処置の検討の影響により、時間がかかっているものと聞いています。

スペースワン社に現在の状況を確認したところ、まだ見通しが立っておらず、打上げ時期が確定できる状態になれば、まず地元の協議会で報告しますとのことです。

和歌山市の都市機能の充実

問 和歌山北インターチェンジのフル化について伺う。

答 和歌山北インターチェンジは、2010年に大阪方面へのハーフインターチェンジとして整備され、隣接する和歌山市の企業誘致用地では、企業立地が進んでいます。

また、更なる産業振興や物流の効率化などを図ることを目的に、2022年9月、和歌山市が立ち上げたフルインターチェンジ化にかかる勉強会では、国、県、市、西日本高速道路株式会社など関係機関が連携し、必要性や構造について検討しています。

県としては、引き続き和歌山市と連携し、こうした取組を進めます。

罹災証明書発行の迅速化

問 官民連携による罹災証明発行の迅速化や効率化が図られている事例もあると聞くが、県内市町村の取組状況や、県としての取組はどうか。

答 官民連携については、手続きの迅速化を図るため、4市と保険会社が被害家屋の写真や調査資料等の提供を受ける協定を結んでおり、県としても、その取組状況や効果を検証し、市町村に対し情報提供を進めます。

不正行為等通報に対する県教育委員会の対応

問 県教育委員会に監察査察課のような部署を新設してはどうか、知事に伺う。

答 教育委員会所管の事業に関する不正行為等通報については、専門性を要する判断が必要と考え、教育委員会で個別に対応しており、不正行為の問題の性質に応じて教育長の指揮のもと、組織を挙げて厳正に対応しています。

不正行為等通報制度については、県民に分かりやすいよう、適正に運用していきます。

洋上風力発電の立地

問 洋上風力発電の取組の現状と立地について伺う。

答 県は、2018年度から3年かけて、ゾーニングマップを作成し、公表するとともに、県の漁業組合連合会と共同で、開発事業者が漁業関係者に接触する際の一元的な窓口を設置しています。

洋上風力発電は、県が脱炭素先進県を目指すに当たり、大量の再生可能エネルギーを導入できる重要な選択肢です。和歌山県周辺海域は、風況などポテンシャルが高く、洋上風力発電の適地だと認識しています。

県としては、洋上風力発電が経済の発展に向けた新たな成長の芽となるよう、取り組んでいきます。

大阪・関西万博における和歌山県の取組

問 万博の効果を最大限波及させるため、どう取り組むのか。

答 将来世代につながる和歌山の未来を創造することをテーマに、関西パビリオン内の和歌山ゾーンの整備・運営や、万博会場内の催事場で祭りなど地域の文化パフォーマンスや企業の出展、さらに、万博の目玉である空飛ぶクルマの実証飛行などに取り組んでいきます。

また、県民の皆様それぞれ、特に学生、生徒など若者が自分の思いを込め、主体的に参加してもらえるよう、機運醸成を図っていきます。

さらに、小中学生の皆さんには、学校行事として万博に参加してもらえるよう、支援を検討していきます。